

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101884		
法人名	医療法人 清和会		
事業所名	グループホームかがやき2号館		
所在地	徳島県徳島市八万町橋本80番地		
自己評価作成日	平成22年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3670101884&amp;SCD=320">http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3670101884&amp;SCD=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年3月10日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

傾聴、共感、笑顔をもっととし職員と共に、できる範囲で役割をはたしていただきながら、生きがいの持てる毎日、個別性のある日常生活を送っていただいている。また、遠足や誕生会、運動会などの行事に参加して地域の住民として交流を図り、楽しみのある日々を過ごしていただいている。部屋は、すべて個室となっており、プライバシーも保てるよう配慮している。医療の面でも母体病院が敷地内にあり、医療との連携により、利用者や家族の皆様様に安心を提供している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅街にあり、また幼稚園や小学校が近いことから地域と継続的に交流することができている。全職員が理念を理解し、地域の住人としてともに過ごせるよう努めている。3つのユニットごとに暖かい雰囲気があり、また個性が感じられる。利用者一人ひとりの個性も大切にし、レクリエーションへの参加や外出の支援がされている。母体病院の地域連携室と積極的に関わることで、地域や行政、医療機関等との関係が密に築かれている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関や各ユニットの事務室やリビングに掲げて毎日確認し、日々の実践に取り組んでいる。	「傾聴、共感、笑顔」のもと地域の住民として交流でき楽しみのある生活が送れるよう取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	小学校や幼稚園の行事、地元文化祭への参加、婦人会等のボランティアの受け入れ等を行い、地域との交流を図っている。量販店での買い物を楽しんだり、地元の祭りでは子供屋台がホームの前まで来てくれたりしている。	すぐ近くに幼稚園、小学校があり、交流する機会を多くもっている。町内会長や民生委員からの声かけがあり文化祭に参加したり秋祭りに神輿が来てくれる等、地域との繋がりがあ	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成への貢献として、実習生の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者や家族、地域包括支援センター職員、民生委員、責任者、管理者職員が参加し、2か月に1回開催されている。活動状況や外部評価結果、災害対策等を議題として意見交換し、改善に向けて取り組んでいる。	運営推進会議は、利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員、法人代表をメンバーとして2か月に1回、開催されている。議事録は検討内容が明細に記されており、特に行事等に活かされていることがよくわかるものとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは、定期的な書類の提出や介護認定申請代行に加えて、入居者の諸制度の活用についての相談をしたり、空き情報の問い合わせを受けたりする等、双方互いに連携している。	わからないことは市町村に電話で聞く等して、課題解決に取り組んでいる。また同法人の地域連携室と深く関わることで連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について理解しており、原則として身体拘束は行っていない。玄関の鍵は外部からの侵入防止のため施錠し、入居者の希望に応じて自由に出入りできるよう配慮している。	外部からの侵入防止の意味でユニットごとの玄関に鍵がかけられている。職員は身体拘束の内容とその弊害を理解し、それぞれのペースや希望に応じて一緒に外出するなど、自由な暮らしを支援している。	玄関を施錠することが身体拘束になってしまったり、鍵をかけるということが当たり前となってしまわないよう注意し、今後も職員の理解や意識が高まるよう話し合いの継続や状況の確認等に取り組まいたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を行い、不適切なケアや言葉による虐待がないよう確認している。また見過ごされることがないように注意を払い、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人内でのバックアップ体制は整っているが、事業所独自の体制は整っていない。勉強会を開き職員への説明、理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をとって丁寧に説明し、納得していただいてから同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の茶話会や運営推進会議で意見を出してもらっている。出された意見を運営に反映させている。家族には家族会で問いかけたり、面会時に何でも言っていただけのような雰囲気づくりに留意している。	毎月行う利用者との茶話会や年3回の家族会、運営推進会議での意見交換等で意見や要望を出していただき運営に反映させている。家族の面会時には常に問いかけるなど、積極的に意見を聴く努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃よりコミュニケーションを図るよう心がけ、話し合う機会を設けて意見や要望を聞いている。また法人内では、調整会議を2週間に1回、ヒヤリハット会議を月に1回、開催している。	管理者は常に職員の意見を聴くよう心がけている。出された意見や提案は前向きに話し合い、具体的に実践されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現状を把握している。また本人の意向を重視し、資格取得に向けて支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を確保して、多くの職員が受講できるようにしている。研修報告書は全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や研修を通して他事業所との交流を図り、ネットワーク作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人や家族と面談を行い、心身状態や本人の思いと向き合い、不安を理解できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯や苦労等をしっかりと聞き、事業所としてどのような対応をしていくかをよく話し合い、信頼関係がつかれるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じてショートステイや入居など必要なサービスの種類を説明している。早急な対応が必要な方にはできるだけ柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々から学ぶことは多く、お互いに支え合いながら楽しく生活が送れるように心がけている。職員は常に笑顔で入居者の方と接するよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしや出来事を伝えて情報を共有し、一緒に本人を支えていく関係づくりに心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中に取り入れたり、面会に来ていただけよう支援している。	行きつけの美容院や商店に行く等、馴染みの関係を大切にしている。知人から花を届けていただいたりするなど、継続的な交流ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけ関わりが持てるように配慮し、孤立することがないように、職員が橋渡している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も継続的な関わりが続けられることを説明している。また家族からの相談にもものっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望を最優先し、できるだけ支援している。また家族からの情報も得るようにしている。残存機能が活かせるような声かけを行い、本人にとって安心した生活が送れる方法を検討している。	アセスメントを詳細に実施することで、希望や意向の把握に努めている。また言葉では意向を伝えられない人でも日々の行動や表情から真意を推し測ったり確認したりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から聞き取りをし、入居後も折にふれ家族から話を聞き、職員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムやできること、できないことを把握し、特に心身状態の把握には気を配って対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人には日常生活の中で、家族には面会時等で意見を聞き、アセスメントや意見交換を行い、カンファレンスを開いて介護計画を作成している。原則3か月以内の見直しと、状態変化が起きた場合は、そのつどカンファレンスを行い変更している。	家族からの思いや意見は面会時に聞き、職員の意見やアイデアと合わせて、介護計画を作成している。また身体状況や意向の変化に合わせて臨機応変に対見直し等を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、全利用者について個別の介護記録を記載し、情報を共有しながら実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ショートステイからグループホーム入居への支援や医療連携体制を活かして受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティア、消防署、教育機関と協力している。また、地域の文化祭やお祭り等にも参加させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関も含め、本人や家族の希望する医療機関にも状況に応じて対応している。基本的には職員同行の受診となっているが、内容により家族に通院介助をお願いする場合もあり、利用契約時にその旨を説明し、同意を得ている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。協力医療機関の受診は職員が支援し、他の医療機関の受診は家族と相談するなど状況に合わせて柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関連病院との連携を密にし、常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。協力医療機関の総師長が2週間に1回くらい来てくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に介護サマリーなどの支援方法を提供している。また家族とも回復状況などの情報交換をしながら、速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを率先して行っていないが、末期の方については、かかりつけ医もしくは当グループホーム関連病院の医師と相談のうえ入居してもらっている。終末期の入居者については、急変時の対応について主治医から指示を仰いでいる。	重度化した場合や終末期に、事業所でできることは、入居段階から本人や家族に説明している。医療関係とも連携し随時、意志を確認しながら話し合いが行なわれている。また重度化した場合の体制や方針の統一を関係者全員で図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練や消火器の使い方の訓練を行ったりマニュアルを作成したりし、それに基づいた訓練を行っている。地域には運営推進会議で協力を呼びかけている。	年2回、消防署の協力を得て、消火器訓練や夜間想定避難訓練を行なっている。地域の方には運営推進会議の際に協力を呼びかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの際に職員の意識向上を図り、入居者の誇りやプライバシーを損ねないよう対応を徹底している。また全職員が個人情報保護法の理解に努めている。	さりげない声かけでトイレ誘導が行なわれている。介助の際は一人ひとり支援し、誇りやプライドを傷つけることのないよう配慮して。また個人情報の漏洩防止には全職員で取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押しつけるようなことはせず、入居者に合わせた声かけをし、複数の選択肢を提案して入居者が自分で決める場面をつくっている。また意思表示の困難な方には表情から読みとるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、一人ひとりのその日の体調や気持ちを尊重し、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みの服装をして、クリームを塗る等、日頃からおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。また馴染みの美容院などがある方は、行けるよう支援している。ウィッグを使用されている人もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に合わせ、準備や片づけと一緒にいき、みんなで同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう、雰囲気づくりを大切にしている。	日常的に調理の下準備や後片付け等を利用者と一緒に行っている。利用者と職員は同じテーブルを囲み会話しながら楽しく食事ができている。またおやつ作りの際には、利用者が力を発揮したり、意欲が高まるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の確認と間食量を把握している。水分補給も時間ごとに行っている。食事量が低下している方に対しては、好みの物を食べてもらう等、配慮するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を話し、食後の歯磨きの声かけを行い、一人ひとりの力に応じて見守りや介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要な方にはトイレ誘導を行い、できるだけトイレでの排泄を支援している。	トイレ誘導を積極的に行い、全ての方がトイレで排泄することができている。紙パンツやパットの使用は、一人ひとりの状況や時間帯に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操など毎日の運動や食材、個人に合った飲み物等を工夫し、自然排便できるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴は可能となっている。入浴を嫌がる方もいるが、職員が同行し安心感を持ってもらえるよう工夫している。	利用者の希望やタイミングに合わせて入浴の支援が行なわれている。また、それぞれの身体状況に合わせて、浴槽台や入浴用昇降機を使用し、安全に安心して入浴できるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を支援し、生活リズムを整えるよう取り組んでいる。また寝付けない時には、温かい飲み物を飲みながらゆっくり話をするなどの配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、そのつど内容を把握して副作用や内服後の状態を観察し、記録している。服薬時には本人に手渡し、きちんと服薬できているかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに役割を持っていただき、できることはしていただき、生きがいのある生活を送ってもらえるよう努めている。また、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や気分に応じて散歩に出かけたり日光浴を楽しんだりしている。また茶話会で入居者の行きたい場所の希望を聞き、買い物や外食、遠足に行っている。場合によっては家族にも協力を依頼している。	日常的な外出に加えて、特別な外出にも積極的に取り組んでいる。公園での散歩や花見、買い物、外食、地域の行事への参加等で生き生きと過ごせるよう工夫している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には、本人や家族と相談したうえで、財布を持っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話しやすい雰囲気づくりをし、プライバシーに配慮しながら個別に支援している。年賀状や暑中見舞いを出すなど、手紙のやりとりも入居者の希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	料理を作っている匂い、食器を洗っている音などで生活感を感じていただいたり、季節ごとの装飾品を入居者の方達と作り、居心地よく生活できるように工夫している。	居間や食堂には利用者と職員が作った毎月の行事予定表を掲示し、季節感あふれる飾りつけがされている。また、ソファが置かれ、ゆっくりくつろげる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人同士で話をしたり、かるたを楽しんだり、入居者同士でくつろいでいただけのスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具を置いたり、写真を飾ったりして、それぞれが居心地よく生活できるように工夫している。	居室には備え付けのベッドと筆筒があり、思いおもいの家具や写真、小物等が持ち込まれている。また、塗り絵や手芸品を多く飾り付けてある居室もあり、その人らしい居室づくりを大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を把握し、どのようにすれば良いのかを話し合っ、できないことは介助し、できることからしていただいで、自立した生活が送れるよう工夫している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関や各ユニットの事務室やリビングに掲げて毎日確認し、日々の実践に取り組んでいる。	理念を玄関や各ユニットの事務室やリビングに掲げて毎日確認し、日々の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	小学校や幼稚園の行事、地元文化祭への参加、婦人会等のボランティアの受け入れ等を行い、地域との交流を図っている。量販店での買い物を楽しんだり、地元の祭りでは子供屋台がホームの前まで来てくれたりしている。	小学校や幼稚園の行事、地元文化祭への参加、婦人会等のボランティアの受け入れ等を行い、地域との交流を図っている。量販店での買い物を楽しんだり、地元の祭りでは子供屋台がホームの前まで来てくれたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成への貢献として、実習生の受け入れを行っている。	人材育成への貢献として、実習生の受け入れを行っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者や家族、地域包括支援センター職員、民生委員、責任者、管理者職員が参加し、2か月に1回開催されている。活動状況や外部評価結果、災害対策等を議題として意見交換し、改善に向けて取り組んでいる。	運営推進会議は利用者や家族、地域包括支援センター職員、民生委員、責任者、管理者職員が参加し、2か月に1回開催されている。活動状況や外部評価結果、災害対策等を議題として意見交換し、改善に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは、定期的な書類の提出や介護認定申請代行に加えて、入居者の諸制度の活用についての相談をしたり、空き情報の問い合わせを受けたりする等、双方互いに連携している。	市町村とは、定期的な書類の提出や介護認定申請代行に加えて、入居者の諸制度の活用についての相談をしたり、空き情報の問い合わせを受けたりする等、双方互いに連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について理解しており、原則として身体拘束は行っていない。玄関の鍵は外部からの侵入防止のため施錠し、入居者の希望に応じて自由に出入りできるよう配慮している。	職員は身体拘束について理解しており、原則として身体拘束は行っていない。玄関の鍵は外部からの侵入防止のため施錠し、入居者の希望に応じて自由に出入りできるよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を行い、不適切なケアや言葉による虐待がないよう確認している。また見過ごされることが無いよう注意を払い、虐待の防止に努めている。	勉強会やミーティング等を行い、不適切なケアや言葉による虐待がないよう確認している。また見過ごされることが無いよう注意を払い、虐待の防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人内でのバックアップ体制は整っているが、事業所独自での体制は整っていないとはいえない。勉強会を開き職員への説明、理解を深めていきたい。	同法人内でのバックアップ体制は整っているが、事業所独自での体制は整っていないとはいえない。勉強会を開き職員への説明、理解を深めていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をとって丁寧に説明し、納得していただいてから同意を得るようにしている。	契約時には時間をとって丁寧に説明し、納得していただいてから同意を得るようにしている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の茶話会や運営推進会議で意見を出してもらっている。出された意見を運営に反映させている。家族には家族会で問いかけたり、面会時に何でも言っていたりするような雰囲気づくりに留意している。	毎月の茶話会や運営推進会議で意見を出してもらっている。出された意見を運営に反映させている。家族には家族会で問いかけたり、面会時に何でも言っていたりするような雰囲気づくりに留意している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃よりコミュニケーションを図るよう心がけ、話し合う機会を設けて意見や要望を聞いている。また法人内では、調整会議を2週間に1回、ヒヤリハット会議を月に1回、開催している。	日頃よりコミュニケーションを図るよう心がけ、話し合う機会を設けて意見や要望を聞いている。また法人内では、調整会議を2週間に1回、ヒヤリハット会議を月に1回、開催している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現状を把握している。また本人の意向を重視し、資格習得に向けて支援している。	現状を把握している。また本人の意向を重視し、資格習得に向けて支援している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を確保して、多くの職員が受講できるようにしている。研修報告書は全職員が閲覧できるようにしている。	研修を受ける機会を確保して、多くの職員が受講できるようにしている。研修報告書は全職員が閲覧できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や研修を通して他事業所との交流を図り、ネットワーク作りに取り組んでいる。	勉強会や研修を通して他事業所との交流を図り、ネットワーク作りに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人や家族と面談を行い、心身状態や本人の思いと向き合い、本人や家族の不安を理解できるように努めている。	事前に本人や家族と面談を行い、心身状態や本人の思いと向き合い、本人や家族の不安を理解できるように努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯や苦労等をしっかりと聞き、事業所としてどのような対応をしていくかをよく話し合い、信頼関係がつかれるよう努力している。	これまでの経緯や苦労等をしっかりと聞き、事業所としてどのような対応をしていくかをよく話し合い、信頼関係がつかれるよう努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じてショートステイや入居など必要なサービスの種類を説明をしている。早急な対応が必要な方にはできるだけ柔軟な対応を行っている。	相談内容に応じてショートステイや入居など必要なサービスの種類を説明をしている。早急な対応が必要な方にはできるだけ柔軟な対応を行っている。	
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々から学ぶことは多く、お互いに支え合いながら楽しく生活が送れるように心がけている。職員は常に笑顔で入居者の方と接するよう心がけている。	入居者の方々から学ぶことは多く、お互いに支え合いながら楽しく生活が送れるように心がけている。職員は常に笑顔で入居者の方と接するよう心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしや出来事を伝えて情報を共有し、一緒に本人を支えていく関係づくりに心がけている。	日々の暮らしや出来事を伝えて情報を共有し、一緒に本人を支えていく関係づくりに心がけている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中に取り入れたり、面会に来ていただけよう支援している。	会話の中に取り入れたり、面会に来ていただけよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけ関わりが持てるように配慮し、孤立することがないよう、職員が橋渡ししている。	できるだけ関わりが持てるように配慮し、孤立することがないよう、職員が橋渡ししている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも継続的な関わりが続けられることを説明している。また家族からの相談にもものっている。	サービス終了後でも継続的な関わりが続けられることを説明している。また家族からの相談にもものっている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望を最優先し、できるだけ支援している。また家族からの情報も得るようにしている。残存機能が活かせるような声かけを行い、本人にとって安心した生活が送れる方法を検討している。	一人ひとりの希望を最優先し、できるだけ支援している。また家族からの情報も得るようにしている。残存機能が活かせるような声かけを行い、本人にとって安心した生活を送れる方法を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から聞き取りをし、入居後も折にふれ家族から話を聞き、職員が把握できるようにしている。	入居時に本人や家族から聞き取りをし、入居後も折にふれ家族から話を聞き、職員が把握できるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムやできること、できないことを把握し、特に心身状態の把握には気を配って対応している。	一人ひとりの生活リズムやできること、できないことを把握し、特に心身状態の把握には気を配って対応している。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人には日常生活の中で、家族には面会時等で意見を聞き、アセスメントや意見交換を行い、カンファレンスを開いて介護計画を作成している。原則3か月以内の見直しと、状態変化が起きた場合は、そのつどカンファレンスを行い変更している。	本人には日常生活の中で、家族には面会時等で意見を聞き、アセスメントや意見交換を行い、カンファレンスを開いて介護計画を作成している。原則3か月以内の見直しと、状態変化が起きた場合は、そのつどカンファレンスを行い変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、全利用者について個別の介護記録を記載し、情報を共有しながら実践に活かしている。	毎日、全利用者について個別の介護記録を記載し、情報を共有しながら実践に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ショートステイからグループホーム入居への支援や医療連携体制を活かして受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続等の支援をしている。	ショートステイからグループホーム入居への支援や医療連携体制を活かして受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続等の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティア、消防署、教育機関と協力している。また、地域の文化祭やお祭り等にも参加させていただいている。	民生委員やボランティア、消防署、教育機関と協力している。また、地域の文化祭やお祭り等にも参加させていただいている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院も含め、本人や家族の希望する医療機関にも状況に応じて対応している。基本的には職員同行の受診となっているが、内容により家族に通院介助をお願いする場合もあり、利用契約時にその旨を説明し、同意を得ている。	事業所の協力病院も含め、本人や家族の希望する医療機関にも状況に応じて対応している。基本的には職員同行の受診となっているが、内容により家族に通院介助をお願いする場合もあり、利用契約時にその旨を説明し、同意を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関連病院との連携を密にし、常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。協力病院の総師長が2週間に1回くらい来てくれている。	関連病院との連携を密にし、常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。協力病院の総師長が2週間に1回くらい来てくれている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に介護サマリーなどの支援方法を提供している。また家族とも回復状況などの情報交換をしながら、速やかな退院支援に結びつけている。	入院時には、医療機関に介護サマリーなどの支援方法を提供している。また家族とも回復状況などの情報交換をしながら、速やかな退院支援に結びつけている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを率先して行っていないが、末期の方については、かかりつけ医もしくは当グループホーム関連病院の医師と相談のうえ、入居してもらっている。終末期の入居者については、急変時の対応について主治医から指示を仰いでいる。	看取りを率先して行っていないが、末期の方については、かかりつけ医もしくは当グループホーム関連病院の医師と相談のうえ、入居してもらっている。終末期の入居者については、急変時の対応について主治医から指示を仰いでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。	緊急対応マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練や消火器の使い方の訓練を行ったりマニュアルを作成したりし、それに基づいた訓練を行っている。地域には運営推進会議で協力を呼びかけている。	消防署の協力を得て避難訓練や消火器の使い方の訓練を行ったりマニュアルを作成したりし、それに基づいた訓練を行っている。地域には運営推進会議で協力を呼びかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの際に職員の意識向上を図り、入居者の誇りやプライバシーを損ねないよう対応を徹底している。また全職員が個人情報保護法の理解に努めている。	ミーティングの際に職員の意識向上を図り、入居者の誇りやプライバシーを損ねないよう対応を徹底している。また全職員が個人情報保護法の理解に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押しつけるようなことはせず、入居者に合わせた声かけをし、複数の選択肢を提案して入居者が自分で決める場面をつくっている。また意思表示の困難な方には表情から読みとるようにしている。	職員側で決めたことを押しつけるようなことはせず、入居者に合わせた声かけをし、複数の選択肢を提案して入居者が自分で決める場面をつくっている。また意思表示の困難な方には表情から読みとるようにしている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、一人ひとりのその日の体調や気持ちを尊重し、柔軟に対応している。	基本的な1日の流れは持っているが、一人ひとりのその日の体調や気持ちを尊重し、柔軟に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みの服装をしたり外出時は頭髪料をつけたりされる方もおり、日頃からおしゃれを楽しんでもらっている。馴染みの理容店などがある方は行けるよう支援している。	自分の好みの服装をしている。買い物時に化粧品を購入したり、髪留めを挿したり等、日頃からおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。また馴染みの美容院などがある方は行けるよう支援している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に合わせ、準備や片づけを一緒に行い、みんなで同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう、雰囲気づくりを大切にしている。	一人ひとりの力に合わせ、準備や片づけを一緒に行い、みんなで同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう、雰囲気づくりを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の確認と間食量を把握している。水分補給も時間ごとに行っている。食事量が低下している方に対しては、好みの物を食べてもらう等、配慮するようにしている。	食事量の確認と間食量を把握している。水分補給も時間ごとに行っている。食事量が低下している方に対しては、声かけを工夫したり、好みの物を食べてもらう等、配慮するようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声かけを行い、一人ひとりの力に応じて見守りや介助を行っている。また定期的な歯科受診の通院介助を支援している。	食後の歯磨きの声かけを行い、一人ひとりの力に応じて見守りや介助を行っている。また定期的な歯科受診の通院介助を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要な方にはトイレ誘導を行い、できるだけトイレでの排泄を支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要な方にはトイレ誘導を行い、できるだけトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操など毎日の運動や食材、個人に合った飲み物等を工夫し、自然排便できるよう取り組んでいる。便秘の方に関しては受診し、医師に相談している。	散歩や体操など毎日の運動や食材、個人に合った飲み物等を工夫し、自然排便できるよう取り組んでいる。また、便秘が続くようなら受診し、医師に相談している。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴は可能となっている。入浴を嫌がる方もいるが、職員が同行し安心感をもって入浴していただいている。	毎日入浴は可能となっている。入浴を嫌がる方もいるが、声かけのタイミングを替えたり、好みの入浴剤を利用したりして勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を勧め、生活リズムを整えるよう支援している。また寝付けない時には、温かい飲み物を飲みながらゆっくり話をするなどの配慮をしている。	なるべく日中の活動を勧め、生活リズムを整えるよう支援している。また、状況に応じて休息できるようにしている。寝付けない時には、温かい飲み物を飲みながらゆっくり話をするなどの配慮をしている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、そのつど内容を把握して副作用や内服後の状態を観察し、記録している。服薬時には本人に手渡し、きちんと服薬できているかを確認している。	服薬に関しては、そのつど内容を把握して副作用や内服後の状態を観察し、記録している。服薬時には本人に手渡し、きちんと服薬できているかを確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに役割を持っていただき、できることはしていただき、生きがいのある生活を送ってもらえるよう努めている。また、感謝の言葉を伝えるようにしている。	それぞれに役割を持っていただき、できることはしていただき、感謝の言葉を伝えるようにしている。趣味の時間を持ち、生きがいのある生活を送ってもらえるよう努めている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や気分に応じて散歩に出かけたり日光浴を楽しんだりしている。また茶話会で入居者の行きたい場所の希望を聞き、希望にそった場所に出かけられるようにしている。場合によっては家族にも協力を依頼している。	本人の希望や気分に応じて散歩に出かけたり日光浴を楽しんだりしている。また茶話会で入居者の行きたい場所の希望を聞き、買い物や外食、遠足に行っている。場合によっては家族にも協力を依頼している。	



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には、本人や家族と相談したうえで財布を持っていただいているが、支払いが自分でできない方に関しては職員が代行し、支払いをしている。	自己管理ができる人はいないので、本人や家族と相談したうえ、現在は所持してもらっていないが、職員と一緒に買い物に出かけて欲しい物を買っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話しやすい雰囲気づくりをし、プライバシーに配慮しながら個別に支援している。年賀状や暑中見舞いを出すなど、手紙のやりとりも入居者の希望に応じて支援している。	家族や友人などに電話しやすい雰囲気づくりをし、プライバシーに配慮しながら個別に支援している。年賀状や暑中見舞いを出すなど、手紙のやりとりも入居者の希望に応じて支援している。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	料理を作っている匂い、食器を洗っている音などで生活感を感じていただいたり、季節ごとの装飾品を入居者の方達と作り、居心地よく生活できるように工夫している。	料理を作っている匂い、食器を洗っている音などで生活感を感じていただいたり、季節ごとの装飾品を入居者の方達と作り、居心地よく生活できるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人同士で話をしたり、かるたを楽しんだり、入居者同士でくつろいでいただけのスペースを設けている。	気の合った人同士で話をしたり、かるたを楽しんだり、入居者同士でくつろいでいただけのスペースを設けている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真を飾ったり塗り絵を貼ったりして、自分の部屋のように居心地よく生活できるように工夫している。	居室には使い慣れた家具を置いたり、写真を飾ったりして、それぞれが居心地よく生活できるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を把握し、どのようにすれば良いのかを話し合っ、できないことは介助し、できることからしていただいて、自立した生活が送れるよう工夫している。	一人ひとりの状態を把握し、どのようにすれば良いのかを話し合っ、できないことは介助し、できることからしていただいて、自立した生活が送れるよう工夫している。	